

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091600124		
法人名	有限会社 聚楽臺		
事業所名	グループホーム じゅらくだい		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市野中町914 (電話) 0942-48-3160		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年12月16日	評価確定日	平成22年1月27日

【情報提供票より】(H21年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨スレート葺 造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (11月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	8 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	72 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひらつか内科・循環器科、小坪内科・消化器科、小坪歯科 聖マリア病院、新古賀病院、はるり鍼灸整骨院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは久留米市中心部の国道210号線沿いに位置し、西洋風の建築で目立つ建物になっている。1階は駐車場で2階3階に居住されている。近くには高良川が流れ、石橋文化センターや公園などがあり、緑があふれ季節感漂う良い散歩コースとなっている。また車で5分圏内には、図書館や美術館、ディスカウントストアや大型ショッピングセンター、デパートなど買い物や外出しやすい環境にあり、この利便性を活かし「元気に暮らす住まい」の理念の下、活動的・意欲的に生活されている。隣には併設の医院があって気軽に受診でき、24時間オンコール体制の連携があるため、安心して生活できるようになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を受け、運営推進会議で報告し、課題について職員と話し合い改善に取り組んでいる。その中で、今年度よりユニットリーダーを決めたことで、報告・連絡・相談がしやすくなり、結果職員の定着につながっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が全職員にサービス評価の意義や目的を説明し、全員で自己評価に取り組んだことで、介護に対する思いや考え方、ケアの振り返りや見直しができ有意義なものとなっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヵ月に1回定期的に開催されている。参加者として市議や民生委員、老人会会長、包括支援センター、市職員、家族などが集まり、ホームの状況報告や出席者からの質問・意見・要望を受け、意見交換している。また、外部評価の結果や課題を報告し、助言を得ながら改善に取り組んでいる。会議を欠席されたメンバーや家族には、議事録を郵送し情報提供している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族の面会時に必ず生活状況について報告するとともに、担当者が毎月状況報告書を作成し郵送している。また、2ヵ月に1回、行事の写真や職員の一言などが書かれた「じゅらくだい新聞」が発行され送付されている。家族から「面会簿を作って欲しい」と要望が寄せられたため、現在ユニット入口に面会簿が置かれている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、回覧板やゴミ当番、老人会や公民館の催し(新年会・忘年会・人形劇)など積極的に参加している。特に老人会の方からは、気軽に声をかけてもらい、採れたての野菜をもらうなど、親しくお付き合いしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	街の中心にあり、交通の便がよく、近くには公園やスーパー、ショッピングセンターなどがあり外出しやすい環境にある。この利便性を活かし、地域で元気に過ごしていただきたいという思いから「元気に過ごす住まい」という理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員参加の月1回のユニット会議で理念について話し合いを行い、今年度より理念を実践するために、ユニットごとに目標を掲げ、目標達成できるよう日々のケアに取り組んでいる。理念と各ユニットの目標は目に着く場所に掲示され、「じゅらくだい新聞」にも掲載している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板やゴミ当番、老人会、公民館の催しなど積極的に参加している。老人会の方からよく声をかけていただいたり、採れたての野菜を持ってきていただいたりしている。老人会の忘年会には、4名が参加するなどして交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価・外部評価の目的を職員に説明し、自己評価はシートを全職員に配布・記入してもらい、まとめは管理者とユニットリーダーで行い回覧した。前回の評価を受け、今年度よりユニットリーダーを決めたことで、報告・連絡・相談がしやすくなり、結果職員の定着につながっている。		自己評価をまとめ、回覧するだけでなく、職員全員で話し合い検討することが望まれる。前回評価では数項目改善課題があり、改善されているものと無いものがある。また2年連続で同じ指摘をされているものもあるため、改善計画シートを作成し、計画的・継続的に取り組み、更にサービスの質の向上に繋げていくことを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回定期的に開催されている。自己評価・外部評価の結果を報告し、助言を得ている。また、入居者の利用状況や行事活動、職員の入退職や研修などの報告を行い、意見や要望は必ず最後に聞き、次回の開催時に改善状況として報告し、意見交換している。欠席されたメンバーや家族には、議事録を郵送し情報提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度、ユニットリーダーを決めるにあたって、市に相談し資料を提供してもらったり他のグループホームの管理者を紹介してもらうなど、協力が得られている。2ヵ月に1回発行の「じゅらくだい新聞」と、運営推進会議の議事録を持参し、ホームの状況を説明している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	事業者協議会のグループホーム部会主催の研修に参加し、報告を行うことで全職員の理解を深めている。権利擁護に関するパンフレットは常設しているが、全職員が説明できるまでにはいっていない。ホーム内での研修は実施されていない。		研修計画を立て、ホーム内外で定期的に研修を受けることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時に、利用者の生活状況について報告を行うよう心掛けている。また、担当職員が毎月1回状況報告書を作成し郵送している。緊急時や健康状態に変化がある場合は、その都度電話連絡し報告している。職員の入退職にあたっては、面会時に口頭で説明をし「じゅらくだい新聞」に挨拶の一言を載せて報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階の玄関には意見箱を設置し、苦情相談窓口・第三者の相談窓口の連絡先を掲示している。面会時や家族会、運営推進会議でも意見を聞く機会を設けている。今回、家族より「面会簿を作って欲しい」と要望があり、各ユニット入口に設置した。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と馴染みの関係が築けるよう、できるだけユニットで職員を固定しており、異動はほとんど実施していない。パート職員のみ、2ユニット間で対応できるようにしている。今年度よりユニットリーダーを決めたことで、業務が円滑に行われ、離職者が減り職員が定着しつつある。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用において性別や年齢を理由に排除することなく、本人の思いや介護への熱意などを考慮し採用している。現在20代から60代の職員が在籍している。洋裁や料理、飾り付けなど利用者と一緒に得意分野を發揮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームの勉強会で市議員を呼んで人権学習を開催し、職員の意識を高める取り組みを行っている。日頃より、スピーチロックな声かけは止めようと心掛けている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では月1回のペースで、認知症や記録など介護に関する勉強や実習を行っている。研修に行った場合はレポートと資料を提出し、ユニット会議で報告し職員で共有している。新入職員に関しては、マニュアル・チェックリストを作成し教育を行っている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会(月1回)に参加し、取り組みや活動など意見交換している。今年度は他のグループホームを見学に行ったりする等して、情報交換・交流を深めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず本人・家族にホームの見学をしてもらい、日帰り・宿泊体験を提案している。入院中の方へは、病院を訪問し挨拶・面談をし、馴染める関係作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はお互いに協働できる場面作りを心がけている。利用者の中で料理の得意な方から、包丁さばきや研ぎ方、料理の仕方などを教えてもらったり、男性の利用者からは、配線の仕方を教えてもらうなど、共に支え合いながら生活している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と関わりあう中で、思いや意向が表出しやすい環境作りを心掛けている。買い物に行きたいとの意向があれば、コンビニやスーパー、ショッピングセンター、デパートなど本人の目的に合わせ柔軟な対応をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	受け持ち担当者がセンター方式を使い、情報収集に努めているが、本人や家族の意向がケアプランに反映されていない。生活課題が記入されていないプランもある。		職員のケアプランに対する認識を高めるため、早急に勉強会や研修を開催することが望まれる。「利用者本位」という視点に立ち今一度、介護計画を見直し、本人や家族の意向が反映された内容となることを期待する。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは1ヵ月に1回実施している。状況の変化に応じて見直しは行っているが、本人、家族と十分な話し合いはできていない。変化が生じた場合のアセスメントも不十分であり、課題と一致していないプランが見受けられた。		本人、家族の思いや意向をふまえ、アセスメントから導き出した生活課題に対して、本人や家族、関係者と話し合い、具体的な援助目標やサービス内容が立てられた計画書になることを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療リハビリや整骨院への送迎、急な外出や外泊など柔軟に対応している。隣接している医院と、24時間医師と看護師とのオンコール体制をとっており、利用者の状態変化時は速やかに対応できるようにしている。希望があれば家族が居室に泊り、利用者と一緒に過ごしていただけるよう支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医で、継続した医療が受けられるよう支援している。また、隣接している医院でも受診できるよう体制を整えている。家族が付き添いできない時は、職員が同行し診察内容を家族に報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応指針について、入居時に説明を行い同意を得ている。重度化した場合は家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。現在まで看取りをしたケースがないため、終末期に向けた方針の共有は徹底できておらず、職員も不安がある。		事業所として最大のケアができるよう、日頃より勉強会や研修などを行って職員の意識付けに努めるとともに、終末期の方針を話し合い共有することが望まれる。
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライドを傷つけるような声かけや介護の場面はなく、職員は一人ひとりを尊重し、プライバシーに十分配慮している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は体操をし、午後からはレクリエーションを行っているが、特に強制することはなく、本人の意思にまかせている。散歩や買い物に行きたいという希望があれば、すぐ対応できるように努めている。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配を利用している。利用者のリクエストに応じて献立を変更し、食材を届けてもらっている。米とぎや配膳下膳、食器洗いなど状況に応じて利用者と一緒に洗い、食べる時も一緒に食卓に着き、落ち着いて食べられるよう配慮している。行事の中でクッキングやバーベキューをし、一緒に料理する機会を設けている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除き、毎日午後をお風呂の時間としている。希望があれば夜間の入浴にも対応しているが、現在利用している方はいない。また、利用者の希望があれば同性の職員で入浴介助を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食器洗い、洗濯干しやたたみ、お茶の準備など一緒に行くよう心掛けている。また、梅干しや干し柿、佃煮を作ったり、歌が得意な方はカラオケをしたり、一人ひとりの能力を発揮でき自信に繋がるよう支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望で散歩や買い物と一緒にいたり、整骨院や鍼灸院、行きつけの美容室に送迎同行したりしている。梅や桜、ブルーベリー、コスモスの観賞といった、季節感が味わえる外出行事を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットは施錠しておらず、自由に行き来できるようにしている。3階ドアにはセンサーがついており不快感のない音が鳴るようになっている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は、まだ避難訓練が実施されていない。来年1月に消防署立ち会いで避難訓練を行う予定だが、地域住民の参加は未定である。職員は火災の避難場所は理解しているが、地震や他の災害時の避難場所は把握できていない。		2階3階が居住区であり、災害時は慌てず確実な避難誘導ができるとともに、地域住民の協力が必須である。火災や地震、台風・水害などあらゆる場面を想定し、昼夜問わず対応できるよう、また地域の方も参加した避難訓練が定期的に行われることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は毎日チェックし記録している。食材は宅配を利用し、管理栄養士が献立を作成・カロリー計算している。調理は職員が主に行い、利用者の状態に応じて刻んだり、ペースト状にしたり、一人ひとり食べやすい工夫している。お茶碗や湯呑み、箸は馴染みのある物を持参し使っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	12月の訪問のため、1階の玄関にはクリスマスツリーが飾られ、居間の壁にはサンタクロースや雪の結晶などの飾り付けがされている。掃除が行き届いており、清潔感があり気持ちよく、居心地のよい場となっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は東向きと南向きにあり、日当たりがよく快適に過ごすことができる。本人や家族と相談しながら、自宅で使い慣れた家具や寝具、電化製品などが持ち込まれ、お仏壇が置かれている部屋もある。		